

## 若者や被爆者失望、不安

# 核廃絶の理想遠く



G7広島サミットの結果に抗議する（左から）高橋悠太さん、岡島由奈さん、被爆者の佐久間邦彦さん=21日、広島市で

G7広島サミットが一日閉幕した。核廃絶の道筋を示すのが被爆地開催の意義。世界に軍拡の気配が漂う中、被爆者や平和活動に携わる若者は一筋の期待を持ち、議論を見守つた。だが、公表された核軍縮についての文書は核抑止論を正当化した。人類は「核なき世界」に近づけたのか、疑問の声が漏れる。

【記者会見した岸田文雄首相】  
「これが現実なんだな」  
二十一日、広島市であったサミットの結果を批判した若者たちの集い。プラカードを掲げた広島大一年の岡島由奈さん（20）は失望をあらわにした。安全保障を核兵器に依存するG7各国が本気で核廃絶にかじを切つたと思えなかつたからだ。同じ頃、平和記念公園で

【岡島さんは被爆者から体験を聞き、中学時代から平和活動に取り組む。首脳が被爆者の思いを週回体験すれば核兵器否定への大きな一步があると期待したから】  
そ「広島で（原爆被害を）見て聞いても」の結果ならば、今後、何を訴えればいいのだろうか」と悩む。被爆者団体や若者団体は各国首脳に被爆地で、原爆の非人道性を認識するよう訴えてきた。十九日、首脳会に被爆資料館を約四十分かけ視察し、被爆者と面会。資料館で記帳した芳名帳には「一度と繰り返してはならない」「平和に向けて行動する」との言葉が並

は胸を張つた。「（G7首脳の声明に）歴史的な意義を感じる」。十九日に公表された共同文書「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」は核なき世界という「究極の目標」への関与を確認。ウクライナ侵攻でのロシアの核威嚇や中国の核戦力増強を批判した一方、G7各国の核抑止の現状を「防衛目的のために役割を果たしている」と肯定した。

岡島さんは被爆者から体験を聞き、中学時代から平和活動に取り組む。首脳が被爆者の思いを週回体験すれば核兵器否定への大きな一步があると期待したから】

世界には推計一万発超の核弾頭が存在する。ひとたび均衡が崩れれば、人類が滅亡しかねないリスクはらむが、平和活動への逆風は強い。

【核政策を知りたい広島若者有権者の会】の共同代表高橋悠太さん（21）は、ウクライナ侵攻を境に「核廃絶は無理」だと（世間の）冷めた目線が増えたと語る。

【でも、諦めれば理想のともしひは消えてしまう。高橋さんは「すぐには変わらないと思うが潮目が変わる時は来る。幅広い世代で、勇気を持って不正義を訴え続けないといけない」と訴えた。】

んだ。その言葉と共同文書の中身の落差に被爆者の心は揺れ動く。

広島県原爆被爆者団体協議会理事長の佐久間邦彦さん（57）は訪問を一定程度評価しつつ不安も感じる。

「こんな悲惨なことが起きないためにも核を持たないといけない」と理解していないのか。核は「必要悪」ではなく「絶対悪」だと

価しつつ不安も感じる。「いかにでも核を持たないといけない」と理解していないのか。核は「必要悪」ではなく「絶対悪」だと